

私立 浅野学園 奥野 康弘 先生

今回は、定期試験等でデジタル採点ソフト「採点ナビ」をご活用いただいている私立浅野学園浅野中学校高等学校の奥野康弘先生にお話を伺いました。

インタビュー日 2020年10月27日



※状況を踏まえ、インタビューはマスク着用でご対応いただきました。

学校全体に導入するなら「採点ナビ」、 と構想を練っていたんです。

——まずは奥野先生の自己紹介からお願いいたします。

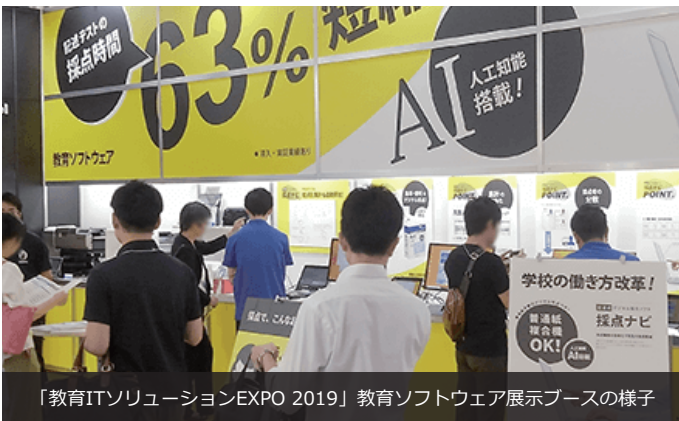
数学の教員としてキャリアをスタートしました。元々大学院で情報関係の学びを深めていたこともあり、高校の情報科設立の際に情報の教員免許を取得し、今ではどちらの科目を教えることもあります。学内では校務の情報化、教育の情報化の仕事を当初より続けてきています。

——2019年10月に学校様にご訪問して紹介の機会をいただきましたが、それまでデジタル採点のような製品はご検討されていたのでしょうか。

デジタル採点の仕組みは、教育IT EXPOの会場などで目にしており、非常に興味深いものでしたので情報収集を続けていました。教育ソフトさんのブースにも何度か足を運びました。実は、他社製品ですが先行して入試で利用しておりまして、ぜひ日常から気楽に使えるものが欲しいと思い、御社にお声をかけさせていただきました。

——展示会でのご訪問ありがとうございます。そこでの「採点ナビ」の印象はいかがでしたか。

2年続けてブースに伺ったのですが、2回で全く印象が変わりましたね。1度目は、良いソフトだけど物足りない点もあるな、とスルーさせていただきました(笑)。ただ、デジタル採点自体は検討を進めていましたので翌年も訪問してみました。かなり機能面が変わっていて驚くとともに、これなら充分検討できると思いました。金額感まで説明を聞き「学校全体に導入するなら、これだな」と、このときから思うようになりました。



「教育ITソリューションEXPO 2019」教育ソフトウェア展示ブースの様子

——至らぬ点もご覧いただいた上でご検討いただき、有難い限りです。その後、多くの先生方にお集まりいただいて、説明会やデモ版の利用をしていただきましたが、このようなシステムを導入することへ抵抗はなかったのでしょうか。

大きな抵抗はありませんでしたね。先にもお伝えしたとおり入試での利用実績がありましたから、先生方もシステムのイメージ自体はある程度できていたのではないかと思います。また個人レベルでこのようなツールを活用している先生もいましたので、どちらかという期待をもって利用することができました。

利用した全ての先生から、 導入に向けて前向きな意見が挙がりました。

——デモ版のご利用から2か月程度で契約に向けた前向きなお話をいただきましたが、学内では導入に向けて障壁になるようなお話はあったのでしょうか。

そうですね。やはり一番懸念していたのは予算を認めてもらえるかです。どうしてもまとまった金額が必要になるので、その点では少し心配はありましたね。ただ、多くのICTシステムの導入に関わっている経験からすると、このシステムは高くない、むしろ費用対効果は充分である、と確信していました。実際、デモ版を利用した先生方にアンケートをとりまして、利用した先生からは全員前向きな回答がありましたので、改めて導入する意味はあるなど感じていました。



——最終的に、他社製品と比べて「採点ナビ」を選んでいただいた決め手とは何でしょうか。

最終的な決め手は販売の形態です。機能面の充実や使いやすさもありますが、費用も含めて利用しやすいシステムだな、と感じ導入を決めさせていただきました。デジタル採点システムは、入試・定期試験はもちろん、小テストなど気軽な採点でも利用して、効率化や分析による教育効果も期待できるものだと感じています。「採点ナビ」はライセンス買い切り型のため、将来的にどれだけ活用が進んでも安心して利用できるシステムであることが一番のポイントとなりました。

——「採点ナビ」を初めてご使用いただいた際の率直な印象についてお聞かせください。

(率直な印象は) 普通に採点するのと比べて、採点を始めるまでの準備で少し時間がかかるということ、採点を始めてしまうと「楽しい」ということです。準備は特にスキャンの部分で、両面印刷の答案をスキャンする際の画像の向きを揃えるのに少し工夫が必要でした。「楽しい」というのは、どうしても採点という業務は重い腰をあげて…となってしまっていたのですが、ソフトを利用するとまとめて解答が確認できたり、誤っている解答だけ見つけたりと、今までとは違うやり方で採点ができるので、採点に前向きに取り組めるようになったのが大きいように思えます。

採点の効率化はもちろんのこと、 導入効果はいくらでも挙げられますよ。

- ・ 採点の効率化
- ・ 隙間時間に採点ができる
- ・ 答案原稿の紛失の心配がない
- ・ 合計点の計算の間違いがない
- ・ 採点済み答案のコピー/スキャンが不要になった

…etc.

2回目以降のご使用については、最初と比べていかがでしたか。

やはり、準備の流れが頭に入っていた分、スムーズに進めることができました。2回目からは生徒の番号の判読にAI機能を利用しましたが、これもうまく活用できたので、より効果的だと感じました。定期テストは番号順に答案を回収できますが、通常の小テストでは座席順に回収するので、答案の並び順はどうしてもバラバラになります。ですがAI判読を使えば、バラバラでも手間なくソフトで採点ができるため、ソフトに慣れてきて、定期試験だけではなく小テストでも！と活用の幅が広がる時にこそ役に立つだろうな、と想像できました。

特にお役に立っている機能があれば教えてください。

番号のAI判読機能、1つの問いの解答を並べて○や×をつける機能、点数の自動集計、添削機能です。やはり採点時には複数の生徒の解答が同時に表示されるのは良いですね。採点が行いやすいだけでなく、全体の解答の様子をざっと見ることができるので指導の参考になります。また、添削機能は特に、同じ文言をスタンプのように何度も、ワンクリックで使える機能が有効に使えています。問題によっては全く同じ添削内容を何度も記入することが結構多いんですよね。この機能を使えば都度同じ文言を書く作業がないので、ここは想定外に便利に使わせてもらっています。

先生方の中には「良さはわかるけど、使い方を覚えるのが大変そうだな…」と感じる方もいらっしゃるかと思います。奥野先生はいかがでしたか。

私はPCに強いということもあるかもしれませんが、苦戦はしませんでしたね。特に採点ナビでは簡単モードを利用すれば、とても親切にナビゲートをしてくれるので不安はありませんでした。他の先生でも、一度使ってから「やっぱり使うのやめます」ということは今のところありません。他社さんのシステムでは機能が充実している分、少し設定が難しく感じるものや、シンプルにはなっているものの使いたい機能がないものもあります。その点、採点ナビはバランスがとれているのではないかと感じています。



ご利用いただいた効果は、どのようなことが挙げられますか。

採点の効率化はもちろんのこと、答案原稿の紛失の心配がなくなったこと、合計点の計算の間違いがなくなったこと、これまでは後日の指導のために採点済みの解答用紙をスキャンしていたのですが、それが不要になったこと、返却後の改ざんの心配がないこと、問題毎の出来・不出来がイメージではなく実データとして分かるようになったことなど、いくらでも挙げられますね（笑）。また、コロナ禍においては出勤形態なども変化しております。本学では以前より全教員にノートPCを配布し、セキュリティを担保した状態でPCの持ち帰りもOKとしていますので、このシステムはその対応策としての効果も見込めるのでは、と考えています。

採点後の時短が今後の活用の鍵

今後、どのように活用を広げていこうという思いはありますか。

科目によっては小テストまで落とし込めればと考えております。先にも述べたように、既に実施できる環境はあっていると感じていますので、例えば国語や英語であれば、まったく同じフォーマットで毎回試験を行い、番号判読もAIで行えば最小限の手間でソフトの活用を進めることができます。利用頻度が高まってくると、やはり準備やそのあとの返却にどの程度時間がかかるかは重要なポイントです。小テストなどは実施後、速やかに採点を終えて返却し、次の学習につなげていくのが鍵となります。それができれば、今まで以上の教育効果が期待できると考えていますので、ソフトでも特に返却部分の進化には今後期待したいですね。



お話にも挙がりました返却方法、あるいはそれ以外で今後期待する機能などあればお聞かせください。

最も期待しているのは生徒への個票返却をメール添付、あるいは既存のファイル共有サービスにて自動で行えるようになることです。今は印刷をして返却していますが、定期試験では返却の時期が当然重なりますので、返却日の朝などは印刷機が大混雑します（笑）。先にも話した小テストでは、返却準備に時間を割くのはかなり苦しい状況ですので、この部分を自動化してくれれば、利用頻度は更に高まるのではないかと思います。また、添削の手書き入力ができる幅が広がりますね。現在は矢印・テキスト等を組合せてコメントするようなやり方で対応していますが、やはり手書きができた方がやりやすい部分もあることは事実です。ぜひ今後の解決に期待したいですね。

今日はお忙しいところありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

本学では近年中にChromebookを生徒に配布し、学校や家でも活用できるように準備を進めております。今後は採点結果だけに限らずに、様々なアンケートや外部模試結果などの紙類をデジタル保存して、生徒・教員の間で共有することができたらと考えています。実は自分でプログラミングして作ってしまおうかとも考えていますが、中々時間がなくてまだできておりません。このソフトには、採点だけではなく、そのような可能性も感じるように感じていますので、これからも続けてのバージョンアップを期待しています。

